



税の必要性

大田区立大森第七中学校 三年 岡田 柚泉

税金は、世間的にマイナスなイメージがあり、強制的にお金をとられる嫌な法律だと思っている人が多いです。無論、私もその中の一人で、税金はない方が良く思っていました。しかし、もしも税金がなくなったらどうなるのか知り、私たちの生活に役立ち、支えられているものと分かった時、税への考え方が変わりました。

私は小さい頃から本が好きで、図書館は定期的に利用しています。図書館はサービス業に分けられ、誰もが無料で本を借りることができる施設です。しかし、無料で本を借りることができない理由は、税金で賄われているからです。例えば、建物の建設費や、働く人の給料、貸し出すための本などで、それは図書館を利用する者にとっては嬉しいことですが、利用しない者の中には「図書館は税金の無駄だ」という意見があります。私は、そのように思っている人がいると分かって残念に思いました。考え方は様々ですが、「税金の無駄」という意見をなくすには、税金の使い道や意味を理解し、世間に流布していくことが大切なのではないかと思えました。

そして、税金の使い道や意味を正しく知るためにこの前、学校で租税

教室がありました。普段、税について考えることがないので、良い機会だったと思います。私たちの目線で話を進めてくださったため、身近に関わっている税金について知ることができました。また、税金は、経済を安定させるためには必要不可欠だということも知り、将来に役立つ情報ばかりでした。私は租税教室を経て、税金はこれからの経済に深く関わるのだと実感しました。税金で、未来を変えていくのは、私たちだと思つので、自分から興味を持って学ぶことができるように、今回得たことを覚えておきたいと思います。

このように、私は税について考える機会があったことで、税の種類を知り、税の仕組みを理解しました。税についての知識は、日常のニュースを観て考えてみたり、お金についての本を読んでみることで増えていくと思います。加えて、税はどのように使われるべきなのかを考え、自分の意見を持つことも大切だと思います。そして、私は「税金は負担が大きい！」というマイナスな思いよりも「税金は、図書館のような娯楽も支えている」というプラスな思いを少しでも持ってほしいです。私はまだ、働くことのできない中学生であり、税金の重みを社会人よりは、感じていないのかもしれませんが、税金への考え方を様々な世代へ広げていき、行動を起こすことで、私たちは少しずつ前へ進んでいくはずです。それだけではなく、社会全体が税の知識を持ち、国と未来のために納税することが、重要だと思えます。